

## 【中学校部会】

大阪府 提案「読書体験から得た感動～読書感想画の指導～」

提案	東大阪市立長栄中学校教諭	加藤 和子先生
司会	東大阪市立布施中学校	但馬美智子先生
記録	東大阪市立布施中学校	辻中 功美先生

### <加藤先生の取り組み>

○本を読む（指導者も）→感想文を書く→テーマを決める（短い言葉で）

- ・あらすじを描くのは挿絵、感想を描くのは感想画

○イメージを形にする方法

- ・アイデアスケッチ
- ・トレーシングペーパーの使用
- ・着色の工夫—マーブリング、スパッタリング、コラージュ等
- ・「自分」を必ず入れる

○毎年10月に指定図書が届く

- ・11月に制作スタート

○感動を絵にするのはたいへん難しいが、生徒が楽しんで取り組んでいる。

### <質疑・応答>

- ・本を読ませる環境をどのくらい確保しているか。
- ・こんな表現の仕方の例がありますよ、と感想画というものの紹介を。
- ・図書、国語、美術で連携して行う。
- ・一人でも二人でも出品していけば、それが見本になる。広がっていく。

大阪市 提案「学校図書館補助員さんと共に」

提案	大阪市立墨江中学校教諭	安東 実香先生
	大阪市立友渕中学校教諭	山本 愛美先生
	大阪市立大宮中学校教諭	立野 陽子先生
司会	大阪市立宮原中学校	栢木かおる先生
記録	大阪市立西中学校	発 重夫先生

<安東先生の取り組み>

○人の配置が進んでいる「地域元気アップ事業」

- ・地域コーディネーターを中心にボランティアの配置—大阪市内24区で一人一区担当  
図書館以外でも学力向上などに、元教員、保護者が入っている。  
図書館支援活動がいろいろな中学校で始まった。

○学校図書館補助員 149名

- ・小中兼任 週3回勤務  
募集：意欲のある人  
仕事：開館（午前10時～午後5時）  
整備、ポップ、掲示物作り  
・事例報告会で紹介

<山本先生の取り組み>

○学校図書館支援補助員 週1回

掲示物、ポップ、コーナーの書架見出し板作成、本の廃棄、お話の会（月1回）

<立野先生の取り組み>

○学校図書館の様子

- ・月水金 昼休み開館 木 昼休み・放課後開館  
・校舎から遠いところにあった。  
・1年生から読書活動を始めた。

○学校図書館支援員1名 週4回

- ・毎週テーマ展示を実施  
・テーマに関係した本を並べる  
・読書紹介を分かりやすく

○元気アップ支援員（ボランティア）13名 昼休みに関わり

- ・ボランティアは、卒業生・保護者  
・月1回の本の整理、図書室の飾り付け  
・明るい図書室になった

○学校図書館は本の整理だけでなく、若い世代の時代の変化や地域の情報にアンテナを張ることも必要

<質疑・応答>

Q. 読み聞かせの時期、参加人数について

A. 放課後16時～ 20～25人参加

事前に連携、7月に実施 演劇部の人たちが参加